



東京マラソンを走る

会員 吉田 悌一郎 (57 期)



今年の東京マラソンのちょうど1年前、昨年2月に友人と一緒に皇居の周りを走ったのがきっかけだった。世は空前のランニングブームであるが、私もほどよい汗をかくことの気持ちよさや、マイペースで手軽に始められることの気楽さ、走った後のビールのおいしさなどからランニングにはまった。以来、週に何日かは朝早起きして自宅近くの川原を走るようになり、休日には皇居や駒沢公園などで長距離を走った。

東京マラソンは、毎年3万人以上が参加するマンモス市民マラソン大会で、私も走り始めた以上はいつか参加したいと思っていた。しかし、参加希望者も多く、今回は倍率10倍程度であった。私は非常に幸運なことに、追加当選で今年の東京マラソンを走る権利を得ることができた。

今年の東京マラソンは、2月26日の日曜日の午前9時10分に新宿の都庁でスタートの号砲が鳴った。私はこの1年間で、フルマラソン1回、ハーフマラソン1回、30キロマラソンに2回出場していたこともあり、とりあえず完走することには自信があった。

東京マラソンの沿道の応援は凄まじく、それまで私が出場した大会とは比べものにならなかった。こ

うした応援にも助けられ、前半はそれなりに快調なペースで走ることができた。しかし、後半になると、それまで蓄積された疲労や足の痛みが徐々に始まり、ペースダウンを余儀なくされた。

そして、35キロを過ぎたあたりがもっとも過酷であった。銀座からゴールの豊洲に向かうコースであるが、陸橋によるアップダウンが断続的に続き、とてもきつかった。もう何もかもが嫌になり、気力で足を前に出すしかない。そんなとき、江東区東雲にある公務員宿舎のビルが見えた。この宿舎には現在福島県からの避難者の方が住んでおり、私も避難者向けの法律相談や物資提供のボランティアなどで何度か訪れたことのある場所だ。このビルが見えたことで、最後の気力を振り絞ることができた。避難者の方々に力をもらったような気がしてならない。

結局、スタートから4時間7分で無事ゴールすることができた。目標だった4時間切りはかなわなかったが、自分なりに満足できる結果であった。ゴール後に友人と一緒に飲んだビールの味も最高だった。

走り終わった後は、もうしばらく走りたくないと思ったが、すぐに次の大会を探している自分がいる。ランニングの魅力に取り付かれた私は、しばらく走ることをやめられそうにない。